

## 卒業される方へ(校長からのメッセージ)

3月を迎え、ようやく日差しにも温もりが感じられる穏やかな季節となりました。

本日ここに、長野県南信工科短期大学校は、卒業式を挙行し、専門課程の機械システム学科19名と電気システム学科18名に卒業証書を授与いたしました。

加えて、短期課程機械科の修了式では、9名に修了証書を授与いたしました。

卒業生・修了生の皆さん、誠におめでとうございます。教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。また、ご家族の皆様にも重ねてお慶びを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が、昨年からの第五類に移行し、社会生活や経済活動もかつての日常へと戻りつつあります。

この卒業式・修了式も、昨年度からは、来賓の方々、保護者の方々をお呼びして、卒業生・修了生の「門出を祝う会」とさせていただきます。

来賓・保護者の皆様におかれましては、ご多用中のところご臨席を賜り、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、本校が設置されています上伊那地域は、長野県下でも、とりわけ工業・製造業がとても盛んな地域です。高い技術力を持つ企業や研究開発型企業が、活発な活動を展開しています。

長野県南信工科短期大学校は、この南信地域の皆様の厚いご支援と大きな期待をいただき、2016年(平成28年)四月に開校いたしました。

本校設置の主たる目的は、将来の「ものづくり産業」を担う「地域中核人材」の育成です。本校では、急速に進展する「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」にも柔軟に対応できる専門知識と技術・技能を兼ね備え、地域のリーダーとして積極的に活躍する実践技術者「ものづくりのスペシャリスト」を育成しています。

その本校を卒業・修了される皆さんに、教職員を代表して、はなむけの言葉を述べさせていただきます。

最初に、専門課程を卒業する皆さん。皆さんは、開校8年目に入学した第8期生です。

入学した1年次には、「一般教育科目」から始まり、「基礎講義」と「基礎実技」により、科学や工学の基礎を身につけました。

後期の「総合課題」では、異なる学科の仲間とグループを作り、アイデアを出し合って、自らが設定した課題を一丸となって解決しました。

そして、二年次の「専攻講義」と「専攻実技」では、充実した設備を用いての実験・実習を通して、確な実践力を磨きました。

「卒業研究」では、ひとり一人が自ら見出した課題に対して、その背景の探索、目的の設定、実験や測定方法の決定、実験の実施、得られた結果の解析と結論の整理、そして改善策と展望を、卒業研究として皆さんの前で発表しました。

卒業研究発表会に出席された企業の方、先生方、同期の学生や後輩から、ご指摘や有益なコメントをいただき、卒業論文としてまとめ上げました。

このような充実した総授業時間2800時間余りのカリキュラムにより、これからのものづくり産業で活躍する基礎を確実に築きました。

本校での学びの経験は、間違いなく皆さんが未来へ向けた大きな財産になります。これからは、地域の中核となって積極的に社会を牽引していただくことを、強く期待しています。

また、今年度の卒業生の中には、4年生大学への編入、職業能力開発大学校への進学を選択された方もいます。本校での学びを基礎にさらなる研鑽を積んでいただくことを期待しています。

次に短期課程を修了する皆さん、皆さんは、開校9年目の後期に入学した第18期生です。皆さんは機械科で、伝統的な金属加工器具から最新のデジタル機器を操作する、知識と技能を習得し、即戦力の「ものづくりのスペシャリスト」としての、さらなるスキルアップを目指しました。

皆さんは、半年間という短い期間で、「普通学科」、「基礎学科」と「専攻学科」の座学の授業で得た機械工学の知識と、「基礎実技」および「専攻実技」の実習授業で、高度な技術と技能を身につけて修了されました。

出向元の企業に戻られる方、新たな道へ進まれる方、それぞれですが、この半年間のハードな授業で得た知識と技能を修得したことが、皆さんのこれからの将来を支える大きな力となることは間違いありません。ご活躍を心より祈念しています。

さて、2年前の入学式では、「鉱石ラジオ」のお話をしました。専門課程の皆さんは覚えておいででしょうか。

今日は、「ダイオード」から「トランジスター」、「IC」、そして現在はそれらを駆使した「DX」の時代です。「ロボット」や「人工知能」が「ものづくり産業」にも急速に広がってきています。

皆さんは、この新しい時代の「ものづくり」人材の育成のために「理念と目標」に基づいて構成された本校のカリキュラムを卒業・修了されました。

皆さんには、自信と誇りを持って、これから待ち受けている様々な課題に、ひとりの技術者として積極的に挑戦してください。

長い人生では、幾度となく、判断に迷うことが必ず訪れます。そんな時には、「何のために、誰のために、知識と技術・技能を使おうとしているのか」、を自らに問い掛けてください。それこそが、技術者として、一番大切なことではないでしょうか。

専門課程、短期課程と本校で学習した時間に長短はありますが、同じ学校で共に学んだ仲間との絆は、大きな財産です。今後も切磋琢磨しあい、時には親交を深めあい、一生の宝物として大切にさせていただきよう、お願い致します。

最後に、南信工科短期大学校から「大海に船出する」卒業生・修了生の皆さんの輝かしい未来への旅立ちを、心から祝い、校長からの式辞と致します。

2025年(令和7年)3月12日

長野県南信工科短期大学校長 武田 三男